

看護学生の大学生活に関する要望：学生アンケートの自由記載の計量テキスト分析

著者	武田 貴美子, 鈴木 真理子, 高野 美穂, 櫻井 綾香, 篠? 一栄, 石坂 俊也, 柴田 香菜子, 柳澤 佳代, 朴 相俊, 八尋 道子
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	12
号	2
ページ	203-212
発行年	2020-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1050/00000268/



活動報告

看護学生の大学生活に関する要望

—学生アンケートの自由記載の計量テキスト分析—

The Demands for the University Life of the Nursing Student:
Quantitative Text Analysis of Free Comments
of the Student Questionnaire

武田 貴美子^{*1} 鈴木 真理子^{*1} 高野 美穂^{*2} 櫻井 綾香^{*1} 篠崎 一栄^{*1}
石坂 俊也^{*1} 柴田 香菜子^{*1} 柳澤 佳代^{*1} 朴 相俊^{*1} 八尋 道子^{*1}

Kimiko Takeda, Mariko Suzuki, Miho Takano, Ayaka Sakurai,
Kazue Shinozaki, Toshiya Ishizaka, Kanako Shibata,
Kayo Yanagisawa, Sangjun Park, Michiko Yahiro

キーワード：キャンパスライフ、計量テキスト分析、要望

Key words : Campus Life, Quantitative text analysis, Demands

要旨

2019年度に実施したキャンパスライフに関するアンケートで、自由記載に書かれた学生の大学生活に関する要望について計量テキスト分析を行った。学生の要望は「学習環境」と「学習支援」に分類された。「学習環境」に関する記述の中に多く出現した語の上位3つは「レストラン」「空調」「時間」であり、語の共起関係から(1)レストランの座席数の増加(2)学校バスの運行時間の見直し(3)空調の温度設定の最適化(4)大学・図書館の開放時間の拡大(5)勉強・食事・くつろぎのスペースの確保(6)売店の設置が示された。「学習支援」に関する記述の中に多く出現した語の上位4つは「教員」「授業」「時間」「人」であり、語の共起関係から(1)教員の言動の改善(2)自分以外の人への対応の必要性(3)実習費用の補助への期待(4)学生交流の機会の設定(5)講義に関する連絡の早期対応が示された。これらの要望からは学生の学びの場として高い認識と学びへの意欲が読み取れた。学生の大学生活への要望に向き合い、学生と共に大学環境を整えていくことが重要である。

受付日2019年10月1日 受理日2020年1月21日

*1 佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

*2 佐久大学学生課 Saku University Student Affairs Section

I. 緒言

本学では学生課と学生委員会が協働し、2013年より在学学生を対象にキャンパスライフに関するアンケート(以下、アンケートとする)を実施している。このアンケートは、本学在学学生の学生生活の実情を把握するとともに、より充実した学生生活を送るための学生支援の在り方を検討することを目的としており、得られた結果をもとに魅力ある大学づくりに取り組んでいる。

本稿では、2019年度に実施したアンケートで得られた結果のうち、自由記載に書かれた大学生活全般にわたる様々な環境や支援体制などに対する意見内容を、計量テキスト分析を用いて分析し、学生の大学生活に関する要望について報告する。

II. 調査方法

1. アンケートの実施方法

アンケート調査は、2019年7月の前期末ガイダンスにおいて調査対象となる看護学科1年次から4年次生および別科助産専攻の学生388名に対し、アンケートの実施と協力の説明を行った後、マークシート形式での回答を依頼した。

2. 調査内容

調査内容は、学年、性別、居住場所、通学状況、クラブ・サークル活動、経済状況、学生生活の状況(履修計画・キャリア開発・学習力・グループチューター制度など)、友人・教員との関係、大学生活の満足度(事務職員の対応、健康面・精神面・経済面の支援体制など)に関する質問に対し、選択肢を用いて回答してもらうとともに、大学生活全般にわたる様々な環境や支援体制に対する意見を自由記載で求めた。

3. 倫理的配慮

学生には有意義な大学生活のために率直な感想や意見を寄せてほしいこと、回答した内容は今後大学の学生支援や環境改善のために学術研究等に使用することがあることについてアンケート調査の依頼文書に記載するとともに、口頭で説明した。また、マークシートに記述された自由記載の内容をデータ化する作業は学内の第三者が行い、その作業の担当者はデータ分析には関わらないことにした。

4. 分析方法

アンケートへの回答データのうち、大学への改善・要望に関する自由記載を分析対象とした。アンケートで得られた自由記載は、大学生活全般にわたる様々な意見を求めており、大学への具体的な要望や個人的な出来事に対する思いなど幅広い意見が記述されていた。学生の意向を客観的にとらえるため、樋口らが開発したフリーソフトウェアKH Coder-3a17e.exe(2019年9月1日)を用いて計量テキスト分析を行った。この分析方法は、データを要約・提示する際に「手作業」を省くことで分析者の持つ理論や問題意識によるバイアスをより明確に排除できるとされている(樋口, 2004)。さらに、計量テキスト分析では伝統的な内容分析よりも柔軟に質的方法と量的方法とを組み合わせることが可能である(樋口, 2006)。

分析の手順は、テキストデータに変換した自由記載の内容を確認し、大学生活全般にわたる環境に関するデータ(以下、「学習環境」とする)と支援体制に関するデータ(以下、「学習支援」とする)に分類した。その後、同じ意味内容を表す語を一つの語で統一するように変換して語の整理を行い、分析データとした(表1)。

この分析データのテキストからKH Coderを用いて頻出語の確認をした後、それらの語の共起関係(共起ネットワーク)を抽出した。

表1 語の整理

整理前の語	整理後の語
冷房、暖房、冷暖房、エアコン、クーラー、温度管理	空調
レストラン、食堂、学食	レストラン
売店、購買、コンビニ	売店
教員、先生	教員
チューター、チューター制度	チューター制度
事務、事務室	事務
交通費、実習費、宿泊費	費用

共起ネットワークは、関連が特に強い語同士を線で結んだもので、出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワークを描くことができる。さらに、出現パターンの似通った語のグループからデータ中に多くあらわれたテーマないしはトピックを読み取ることができる。また、語の出現数に応じて、それぞれの語(node)をあらわす円のサイズが変化し、語の出現数と円の面積が比例するようになる。このように図式化することで、学生の大学生活に対する意見として記述された語に関するつながりを示すとともに、出現パターンからテーマを読み取ることを目指した。なお、共起ネットワークを描くにあたり、語の最小出現数を3、描画する共起関係は上位60に設定した。

Ⅲ. 結果

アンケートは374名からの回答が得られ、回答率は96.4%であった。内訳は1年次生84名(22.5%)、2年次生93名(24.9%)、3年次生87名(23.3%)、4年次生98名(26.2%)、別科生12名(3.2%)であった。自由記載は260件で、内訳は1年次生52件、2年次生70件、3年次生64件、4年次生62件、別科助産専攻生12件であった。

1. 学習環境

1) 「学習環境」に関する自由記載における頻出語

学生から得られた自由記載データのうち、「学習環境」に関するデータは186件であった。KH Coderを用いて前処理を実行し、文章の単純集計を行った結果、243の文、184の段落が確認された。また、総抽出語数は2606、異なり語数は573であった。これらの抽出語のうち、出現回数が3回以上であった70語を表1に示す。このうち出現回数が多かった語は、「レストラン」「空調」の2語が48回、「時間」21回、「寒い」、18回であった(表2)。

2) 「学習環境」に関する語の共起関係からみた学生の要望

「学習環境」に関する自由記載においては、図1に示すような語の関連が見られた。それぞれの語の共起関係をもとに、語のまとまりごとに学生の「学習環境」に対する要望として解釈した。なお、学生の自由記載を〈 〉内に記述し、下線を記している語は、図1の中に現れている語である。

(1) レストランの座席数を増やしてほしい

図1の左上に最も大きな円で「レストラン」が示されており、この語に関連して「レストラン-座席-増やす」という語のつながりを読み取ることができる。具体的な記述には、〈レストランの座席の数を増やしてほしい。〉〈新しい学部ができるという事ですのでレストランの食事スペースを増やして欲しい〉〈レストランで昼食を取りたくても人数が多

表2 「学習環境」に関する自由記載における頻出語

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	レストラン	48	26	少し	6	51	入れる	4
2	空調	48	27	欲しい	6	52	コピー機	3
3	時間	21	28	良い	6	53	コンビニ	3
4	寒い	18	29	バス	5	54	延長	3
5	座席	17	30	延ばす	5	55	改善	3
6	暑い	17	31	学食	5	56	学生	3
7	増やす	17	32	使用	5	57	空間	3
8	もう少し	16	33	多い	5	58	使う	3
9	開放	15	34	土曜日	5	59	施設	3
10	大学	15	35	利用	5	60	実習室	3
11	売店	12	36	Wi-Fi	4	61	設置	3
12	勉強	12	37	椅子	4	62	設定温度	3
13	授業	11	38	温度	4	63	全体	3
14	教室	10	39	嬉しい	4	64	早い	3
15	少ない	10	40	机	4	65	置く	3
16	数	10	41	強い	4	66	遅い	3
17	日曜日	10	42	狭い	4	67	部屋	3
18	トイレ	9	43	午後	4	68	平日	3
19	場所	9	44	高い	4	69	別科	3
20	人	9	45	座れない	4	70	本数	3
21	図書館	9	46	出る	4			
22	学内	8	47	食事	4			
23	効く	8	48	体育館	4			
24	スペース	7	49	朝	4			
25	事務	6	50	調節	4			

く座席を確保できないためテーブルの数などがもう少し多ければいい)などレストランの座席を増やすことに関する意見が多数見られた。さらに、「座席－少ない－数」という語のつながりもあり、〈レストランの座席の数が少なく感じる〉〈レストランの座席が少なくお昼時は座席に座ることができない〉〈レストランの座席が少なくて座席取り禁止にも関わらず座席取りをしている人たちがいてとても困る〉など座席の数の少なさに困惑している状況が記述されていた。

また、図1の左下に示された「人－座れない－多い」という語のつながりには、〈レストランに座れない人がいる。もう少し多くの人が座れたらいいと思う〉〈レストランが小さくて座れない人がたくさんいる〉〈レストランで昼食を取りたくても人数が多くて座席を確保できないためテーブルの数などがもう少し多ければいい)などレストランを利用する学生数に対して座席数が足りない状況が記述

されていた。これら2か所の語のつながりから【レストランの座席数を増やしてほしい】という要望が伺えた。

(2) 学校バスの運行を学生のスケジュールに合わせてほしい

「増やす」という語に関係して、図1の左側に「増やす－本数－バス－授業」という語のつながりが示された。これらの語のつながりには〈授業終わりが少しでも遅くなるとバスに乗れないので、バスの出る時間を遅くするか本数を増やしてほしい。〉〈授業後5分でバスが出発するのが早すぎる。おそくするか本数を増やしてほしい)など学校バスの運行時間が学生の行動に要する時間と合わない状況が記述されていた。これらの語のつながりから【学校バスの運行を学生のスケジュールに合わせてほしい】という要望が伺えた。

(3) 空調の温度設定を適切にしてほしい

図1の上部に2番目に大きな円で示された「空調」という語に関連して、「空調－暑い－

表3 「学習支援」に関する自由記載における頻出語

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	教員	13	16	多い	4	31	場	3
2	授業	11	17	対応	4	32	内容	3
3	時間	9	18	連絡	4	33	負担	3
4	人	9	19	お金	3	34	聞く	3
5	保健師	7	20	もう少し	3	35	勉強	3
6	チューター制度	6	21	オクレンジャー	3	36	補助	3
7	学年	6	22	違う	3	37	利用	3
8	実習	6	23	活動	3			
9	出ず	6	24	関わる	3			
10	少ない	5	25	言う	3			
11	機会	4	26	交流	3			
12	交通費用	4	27	行く	3			
13	事務室	4	28	使う	3			
14	前	4	29	車	3			
15	早い	4	30	宿泊費用	3			

してほしい」という勉強するための場(スペース)を求める記述がみられた。さらに「スペース」という語に関連している「食事」という語を介して「場所」という語につながっていた。〈レストランなど勉強したりご飯を食べられるスペースを増やしてほしい〉〈食事スペース、くつろげる場所がもっとほしい〉〈授業時間外に学内でのくつろげる場所が増えると嬉しい〉〈もう少しリラックスできる場所がレストラン以外でもあると良い〉などの記述がみられ、勉強だけでなく、学生が休息をとれるような場を必要としている様子が伺えた。これらの語のつながりから【勉強・食事・くつろげる場がほしい】という要望が伺えた。

(6) 売店を設置してほしい

図1の下中央に「売店－学内」という語のつながりが示されており、〈お昼の時、学食・パンなどが売り切れてしまった場合の時の対応。売店がほしい〉〈学内に売店などの食べ物以外にも買うことができる施設がほしい〉〈文具などを扱う売店があれば便利〉という記述から、食物の確保だけでなく、文房具など学業においての必要物品が購入できるシステムを必要としている様子が伺えた。これらの語のつながりから【売店を設置してほしい】という要望が伺えた。

2. 学習支援

1) 「学習支援」に関する自由記載における頻出語

学生から得られた自由記載データのうち、「学習支援」に関するデータは67件であった。KH Coderを用いて前処理を実行し、文章の単純集計を行った結果、168の文、67の段落が確認された。また、総抽出語数は1923、異なり語数は549であった。これらの抽出語のうち、出現回数が3回以上であった37語を表2に示す。このうち出現回数が多かった語は、「教員」13回、「授業」11回、「時間」「人」の2語が9回であった(表3)。

2) 「学習支援」に関する語の共起関係からみた学生の要望

「学習支援」に関する自由記載においては、図2に示すような語の関連が見られた。それぞれの語の共起関係をもとに、語のまとまりごとに学生の「学習支援」に対する要望として解釈した。なお、学生の自由記載を〈 〉内に記述し、下線を記している語は、図2の中に現れている語である。

(1) 教員の言動への改善を求める

図2の上部中央に最も大きな円の「教員」と「授業」がつながって示されており、さらに「教員－言う」という語のつながりを読み取ることができる。具体的な記述には、〈レスポ

ンの番号を授業前の休憩中に出す教員がいる)〈授業の内容でわからない点があったので担当教員に聞きにいったところ馬鹿にしたような口調で笑われた)〈教員の言っていることと行動が伴っていないことが非常に目につく)〈実技試験等で教員によって言っていることが異なっており少々戸惑う)など「教員」の言動に学生は困惑している様子が伺えた。さらに「教員」という語には〈教員によって指導方法が異なり、どうすればよいのかわからない)〈教員の態度に不快を感じる)ことがあった)〈事務室と教員の連携をもっと密にしてほしい)〈教員とつながれる機会をもう少し増やしても良いと思う)など「教員」の言動や態度の改善を求める意見が多く記述されていた。これらの語のまとめから【教員の言動への改善を求める】という要望が伺えた。

(2) 自分以外の人に対する支援を求める

図2の左中央部に示された大きな円の「人」は「違う」「行く」などの語とのつながりを示されている。これらのつながりには〈色々な人と関わりたいのでグループワークは毎回違う人となりたい)という多くの「人」と関わりたいという要望だけでなく、〈実習中の交通費用の負担が人によって違うので、均等にしてほしい)〈車の持っていない人が車以外の交通手段のない実習先に行くのが困難)など自分以外の「人」に関する記述がみられた。そして「人」という語には〈レスポンスをしてからすぐに帰っていく人がいる)〈運動する習慣のない人が多いのでクラスマッチなどの運動習慣をつけてほしい)など自分以外の「人」の行動を意識したうえで、さまざまな支援の必要性が記述されていた。これらの語のまとめから【自分以外の人に対する支援】を求めていることが伺えた。

(3) 実習に伴う費用への補助がほしい

左下部には、「実習」という語を中心に「負担」「交通費用」「宿泊費用」「補助」という語

のつながりがみられた。これらの語は同一文の中でみられることが多く、〈実習中の交通費用負担が人によって違うので、均等にしてほしい)〈実習中の交通費用が10,000円以上かかってくると、交通費用がかかっていない人との不平等さを感じる)〈地域看護学実習の宿泊費用の学生負担が大きい)〈実習で宿泊費用は学校で出すのに交通費用が多くかかっているところには少しくらい負担してほしい)など実習に伴う交通費や宿泊費の自己負担額の不平等さを訴える記述がみられた。そして、〈保健師課程において模試の費用や実習の宿泊費用などももう少し学校側で補助してほしい)〈全額とはいわれないが補助が出てもいいのではないか)など大学側への費用に関する「補助」を求める記述がみられた。これらの語のまとめから【実習に伴う費用への補助】を望んでいることが伺えた。

(4) 学年を超えた学生同士の交流の機会がほしい

右中央部には「チューター制度」「学年」という2語を中心に「少ない」「交流」「機会」という語のまとめがみられた。「チューター制度—少ない」では〈チューター制度があるにも関わらず、集まる機会が少ないので機能していないのではないか)〈自分の所は関わりが少ないと感じ、実際に関わりの深い先輩はいないからチューター制度の強みが生かしていない)など、さらに「チューター制度」という語には〈先輩後輩の関係が良好なチューター制度と希薄なチューター制度がある)〈チューター制度はなくても良い)などの記述がみられ、「チューター制度」が活用できていない状況が記述されていた。そして「学年—機会」では、〈上の学年、下の学年とももう少し仲良くなれる機会があっても良い)という記述や〈もっと他学年や同学年と交流できる場を作るべき)など「学年」を超えた交流の機会を求める記述がみられた。これらの語のまとめから【学年を超えた学生同士の交流の機会】

がみられたのは、「レストランの座席数」についてであった。今年度の本学の学生の在籍数は、看護学部376名、研究科20名、別科助産専攻12名、短期大学部64名で合計472名である。本学の学生たちは過密なスケジュールのなかで学習を進めており、時期によって、ほとんどの全ての学生が同じ時間帯に昼食時間を過ごすことがある。そのため、学生にとっては食事の場の確保が一つの課題であるといえる。本学において食事ができる場所は基本的にレストランのみであり、授業期間中の昼食時に限り、一部の教室と談話室、学生ラウンジを食事の場として許可している。しかし、レストラン以外の活用状況は不明であり、学生がレストラン以外の場で食事を摂ることに対する考えを把握する必要があると考える。また、レストランは食事以外にも自己学習の場として活用している状況も伺え、「勉強・食事・くつろぎのスペース」「大学・図書館の開放時間の延長」を求める意見も挙げられていたことも踏まえて、学生が講義・演習以外の時間を過ごす場の確保は、「学習環境」を整えるうえで優先される検討事項と考える。

加えて、学生が過ごす場に関連した注目すべき要望として「空調の温度設定」の対応が挙げられる。具体的な記述は、アンケートの実施が7月の暑い時期であったことが影響しており、冷房に伴う寒さに関する内容が多くみられた。「学習環境」として室温調整は重要な要素であるが、温度感覚は個別性を伴うことから難しい課題といえる。空調設備を中心としたハード面の改善の必要性の有無を検討するとともに、ソフト面では学生個々の衣類等による室温への対応を促していくこと、教員は講義中の室温の適切性について学生に確認することが望ましいと考える。

2. 学生による学習支援への要望

「学習支援」に関する自由記載の分析において、記述の中に多く出現した語の上位4つは

「教員」「授業」「時間」「人」であった。学生への「学習支援」の充実を図るにはこれらの語を意識した介入を検討することが望ましいと考える。

また、語の共起関係から読み取った学生の「学習支援」に関する要望は、(1)教員の言動の改善(2)自分以外の人への対応の必要性(3)実習費用の補助に対する期待(4)学生同士の交流の機会の設定(5)講義に関する連絡の早期対応の5つが示された。

「学習支援」に関する要望のうち、「教員の言動の改善」は速やかな対応が求められるものであると考える。自由記載において、「教員」という語が含まれる記述は多岐にわたっており、強い共起関係は認められないものの、教員による学生への対応において、学生が不快感を抱いたり、困惑している状況が伺えた。学生にとって教員との関係は、大学生活において友人関係に続く重要な人間関係であり、学習意欲への影響も大きいと考える。学生の記述に「教員」という語が多数出現することからも、教員は学生にとって「学習支援」として最も注目する存在としての意識を高めるとともに、学生への対応を振り返り、互いに理解を深められるような関わりを心がけることが必要である。

また、「自分以外の人への支援」に関する記述も多くみられ、学生が他の「人」を意識していることが伺えた。さらに「学生交流の機会」を求める意見も記述されており、「人」との関わりが「学習支援」の一つとして位置付けられているといえる。本学ではグループチューター制度を取り入れているが、学生の記述からは効果的な関わりに発展しているとは言い難い状況が伺えた。しかし、学生は「人」と関わりを求めていることから、チューター制度のあり方を学生とともに検討し、学生が求める「人」との関わりの機会を広げていく支援が必要と考える。

また、「学習支援」として「実習費用の補助」

を求める記述もあり、何らかの対応を検討する必要があると考える。本学の実習展開では、学生による交通費や宿泊費の自己負担は免れない状況である。学生間での負担額の格差が生じている状況が自由記載から読み取れ、学生の経済的なつらさが伺えた。看護を学ぶうえで臨地実習はとても重要であり、学生の学びを支援するためにも実習に関する費用負担について検討する必要がある。

以上のキャンパスライフアンケートの自由記載の分析から浮かび上がった「学習環境」「学習支援」への要望は、学生たちが本学を“学びの場”として高い認識をもったうえでの要望である。これらの要望を概観すると、学生たちの“学びへの意欲”が読み取れる。これらの要望に真摯に向き合い、学生とともに大学環境を整えていくことが重要であり、学生

が有意義な学生生活を送ることができるように支援することによって、魅力ある大学づくりにつながるといえる。

謝辞

アンケートにご協力くださいました学生の皆様に感謝いたします。

文献

樋口耕一(2004). テキスト型データの計量的分析 —2つのアプローチの峻別と統合—. 理論と方法, 19(1), 101-115.

樋口耕一(2006). 内容分析から計量テキスト分析へ —継承と発展をめざして—. 大阪大学大学院人間科学研究科紀要, 32, 1-27.